

H29年度 山口県看護協会保健師職能集会報告

H29年6月24日(土)に保健師職能集会を開催しました。88名参加のもと、山口県保健師職能委員長よりH28年度事業報告・H29年度事業計画等報告の後、特別講演『地域医療構想における保健師の役割』というテーマで、島根県県央保健所 中本 稔 所長 にご講演をいただきました。



講演では、これまでの日本の健康政策と保健師活動を振り返りながら、最新の医療情勢をふまえ、地域医療構想についてとても分かりやすくお話していただきました。

また、地域医療構想における保健師の役割として、地域包括ケアシステムにおける今後の切れ目ない連携が重要ということを確認し、保健師としてのこれからの個々の業務にどう活かしていけばよいのかを見つめ直す、よい機会となりました。

また、先生からのメッセージとして、医療構想の時代の保健師に期待することとして、将来の地域の時間軸を想定しながら、専門職、行政職、生活者、人として夢や地域への愛着を持ち、地域が幸福になるようなまちづくりに貢献して欲しいという言葉いただきました。

地域保健、母子、高齢者・介護、職域等に関わりながら、次世代の地域づくりを担っていかねばならない私達保健師にとって、今後の活動の参考になりました。



～参加者の感想～ (アンケートより抜粋)

○20歳代

・「まちづくり」の広い視点で保健師の活動を考えなくてはいけないと思った。他の市町以外の活動も聞けて良かった。

○30歳代

・全てにおいて“市民がどうなってほしいのか”と地域全体を考えながら目標をもって活動することが大切だと思った。
・今後地域医療構想を難しく考えず、業務を通して意識していけるかなと思う。

○40歳代

・どのような業務・担当であっても地域医療構想の一役を担っていることを再認識できた。

○50歳代

・大変勉強になった。地域医療構想における自分の立ち位置、なにをすべきか、たくさんのヒントをいただいた。しっかり持ち帰り、自分のまちとしても考えていきたい。

○60歳代

・全体を見据えて推進する一人になりたい。

最後に同年代のグループに分かれ、情報交換会を行いました。「各地域の取り組みの現状や問題点、悩みごとの共有が出来て良かった。」との声も聞かれ、今後、幸福な地域づくりを目指し、連携を深めていく中で大変有意義な時間となりました。